

新型インフルエンザ発生時 職場における 感染リスクに応じた 感染予防・防止対策と保護具		流水や石けん・アルコール製剤による手洗い	不織布製マスク(サージカルマスク)	N95マスク以上又は防じんマスクDS2規格以上	手袋	ゴーグルまたはフェイスシールド	ガウン	ヘッドカバー又は帽子	靴カバー又はゴムの長靴	エプロン(ビニール製)	電動ファン付呼吸用保護具(PAPR)※2
リスク	行動環境										
低	① 症状のない人にも通常2m以内に近づく可能性がない 例: 職場においてお互いに2m以上の距離を保つことができる。また発熱や咳などの明らかな症状がある人と同じ部屋にいることはない。	○									
	② 発熱や咳などの症状を有する人に2m以内に近づく可能性がない 例: 職場において発熱や咳などの明らかな症状がある人と同じ部屋にいることはないし、いたとしても自分は2m以内に近づくことはない。	○	△								
中程度	③ 通常はないが、突発的な状況でのみ、発熱や咳などの症状を有する人の2m以内に近づく可能性が短時間ある 例: 通常は職場において発熱や咳などの明らかな症状がある人と同じ部屋にいることはないが、もしいた場合には自分は2m以内に近づくことが短時間はありうる。	○	△~○								
	④ 発熱や咳などの症状を有し、新型インフルエンザに感染した可能性が否定できない人の2m以内に近づく可能性がある 例: 患者と対面して状況を確認する者、搬送に関わる者	○	(○)※1	○※1	○	(○)※3	(○)※3	(○)	(○)	(○)	
高	⑤ 新型インフルエンザと診断された人の2m以内に近づく可能性がある 例: 患者を搬送する者	○	(○)※1	○※1	○	(○)※3	(○)※3	(○)	(○)	(○)	
	⑥ 新型インフルエンザに感染した(疑い例も含む)人の血液などの体液飛散の可能性がある	○	(○)※1	○※1	○	○	○	○	○	(○)	(○)

△	十分な防護効果が得られるという科学的根拠はない
(○)	状況に応じて使用する
※1	患者数が相当数増加してきた時点、N95マスク以上または防じんマスクDS2規格以上が入手困難になった場合あるいは他の状況での使用が優先される場合に不織布製マスク(サージカルマスク)の使用になる
※2	PAPRは、環境からの飛沫などの粒子状物質を電動ファンとフィルタによって除去した空気を着用者に送風する。防護性が高く、また呼吸も製品によってはしやすく長時間着用も可能である。高価で使用には熟練が必要なことから、非常に高いリスクが考えられる場合にのみ使用されるべきである。
※3	感染が拡大しフェーズが進むにつれ、必然性が薄れると考えられる
重要	a) 手洗いの励行や、症状のある者に近づかないことが大切。 b) 保護具の装着等の教育を行う。一部の保護具(マスクやPAPR、ゴーグル又はフェイスシールド)は医療従事者以外には特に教育が必要。

参照: 国立感染症情報センター: 「鳥(H5N1)・新型インフルエンザ(フェーズ3~5)対策における患者とその接触に関するPPE(个人防护具)について Ver 1.4」

注意	a) この表は、現行のガイドラインに沿って作成したものである。
	b) ここに示した感染予防と防護対策と保護具の水準は、推定される新型インフルエンザの感染経路により、現時点でとりうる最も適当だと考えられる策として推奨するものである。各職場における職員の教育・訓練や、備蓄等の検討材料として活用していただきたい。今後の研究による医学的知見および今後のガイドラインの見直しにより、漸次改訂されることが予測される。よって、常に最新の情報を収集するよう配慮されたい。
	c) ④~⑥のPPEに関しては、専門家の間でもまだ一致した合意が得られていないため、今後、出てくる知見や議論等に応じ変更する可能性がある。